

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

天竜川の流域は、広大で変化に富んだ地形、地質、気候を反映して、源流から河口にいたるまで豊かな自然環境を有している。

上流域は、3,000m級の中央アルプス、南アルプスの山麓には、ミズナラ林などの落葉広葉樹林やカラマツ林などの針葉樹林が広がっている。河道内の砂礫河原にはツツザキヤマジノギク、カワラニガナなど河原特有の植物が生育・繁殖し、狭窄部の河畔林はカワセミ等が採餌に利用する。瀬はアユやアカザが生息し、ワンドやたまりには、スナヤツメやダルマガエルが生息・繁殖する。

中流域は、「天竜奥三河国定公園」に指定されており、名勝「天竜峡」に代表される渓谷区間と渓谷沿いの山地に広がる「天竜美林」と称される^{てんりゅうびりん}スギ・ヒノキ植林が景観の基をなし、佐久間(さくま)ダムなど発電ダムからの眺望、ダム湖面に映る周囲の山並等が特徴的な景観となっている。

下流域は、扇状地が広がり砂礫主体の「白い河原」が景観の基をなしているほか、河口部や支川合流部にはワンドや湿地、樹林などの環境・景観が形成されている。砂礫河原はコアジサシの営巣地、瀬はアユの産卵床として利用され、河口部の湿地にはヨシ群落が見られ、汽水性の魚介類も生息している。

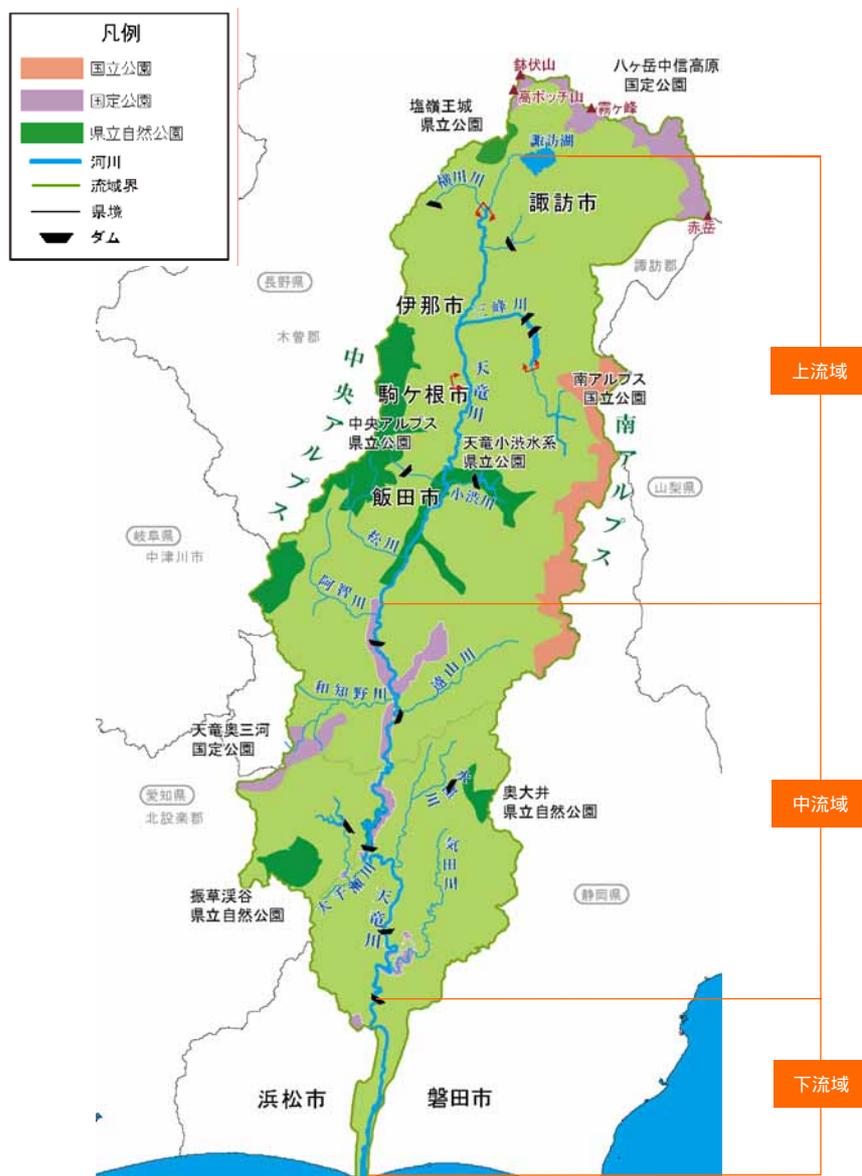


図 2-1 流域区分図

2 - 2 河川及びその周辺の自然環境

(1) 河川の自然環境の概要

< 上流域 >

天竜川の源の諏訪湖では、ワカサギが生息・繁殖し、コハクチョウが越冬する。諏訪湖から発した天竜川の上流域では、伊那峡や鷲流峡^{がけうきょう}に代表される狭窄部と砂礫河原の広がる氾濫原が交互に現れる景観を呈し、背後にそびえる3,000m級の中央アルプス、南アルプスの山麓には、ミズナラ林などの落葉広葉樹林やカラマツ林などの針葉樹林が広がっている。砂礫河原にはツツザキヤマジノギク、カワラニガナなど河原特有の植物が生息・繁殖し、狭窄部の河畔林はカワセミ等が採餌に利用する。瀬はアユやアカザが生息し、ワンドやたまりには、スナヤツメやダルマガエルが生息・繁殖する。



ツツザキヤマジノギク



カワラニガナ



カワセミ



アユ



アカザ



スナヤツメ(幼生)



ダルマガエル

< 中流域 >

天竜峡から船明ダムに至る中流域は、「天竜奥三河国定公園」に指定されており、名勝「天竜峡」に代表される渓谷区間と渓谷沿いの山地に広がる「天竜美林」と称されるスギ・ヒノキ植林が景観の基をなし、佐久間(さくま)ダムなど発電ダムからの眺望、ダム湖面に映る周囲の山並等が特徴的な景観となっている。水辺と森林が一体となった環境には、ブッポウソウやニホンカモシカ、アマゴ、カジカガエルが生息するなど、豊かな自然環境を有している。



ニホンカモシカ

(出典:群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編)



ブッポウソウ



アマゴ



カジカガエル

< 下流域 >

船明ダムから河口に至る下流域は、扇状地が広がり砂礫主体の「白い河原」が景観の基をなしているほか、河口部や支川合流部にはワンドや湿地、樹林などの環境・景観が形成されている。砂礫河原はコアジサシの営巣地、瀬はアユの産卵床として利用され、河口部の湿地にはヨシ群落が見られ、汽水性の魚介類も生息している。一方、遠州灘沿岸の海岸は、汀線が後退するとともにかつての砂浜が縮小し、特徴的な景観が失われつつある。



コアジサシ



アユ



河口周辺のヨシ原

(2) 河川環境を特徴づける環境要素

天竜川の河川環境を特徴づける環境要素（川らしさを代表する箇所）としては、以下があげられる。

環境要素		特徴	
上流域	（諏訪湖）	開放水域（湛水域）	・広い水域は、ワカサギやナガブナ等の魚類が生息・繁殖し、カルガモやコハクチョウが休息場として利用する。
		砂利浜・なぎさ	・砂利浜は、セグロセキレイ等の鳥類の生息・繁殖場所として利用される。
		水辺湿地性草地・樹林	・岸近くにはアサザ等の水生植物が繁茂し、陸側にはヨシ原、ヤナギ林が見られる。
	（諏訪湖）天竜峡	瀬・淵	・砂礫河床の瀬淵には、アユやアカザ等の魚類、トビケラ、カワゲラ等の底生生物が生息する。
		ワンド・たまり（湧水）・細流	・支川合流部の細流やワンド・たまり、湧水には、スナヤツメやドジョウ等の魚類、ダルマガエルやツチガエル等の小動物が生息・繁殖する。
		自然裸地（砂礫河原）	・広い砂礫河原には、カワラニガナやツツザキヤマジノギク等の河原特有の植物が生育・繁殖し、イカルチドリやコチドリの営巣に利用される。
水辺湿地性草地・樹林		・砂礫河原の周辺には、ツルヨシ群落やヤナギ林が分布し、カワラヒワ等の鳥類が生息する他、シマヘビ、アカネズミ等が生息・繁殖する。	
河畔林	・山付部には、河畔林と水辺が一体となった環境がみられ、カワセミやヤマセミの採餌場に利用される。 ・山付部の樹林帯は流域と河川を結ぶ生物の移動空間となっている。		
中流域	（天竜峡）船明ダム	ダム湛水域	・樹林に囲まれたダム湛水域は、オシドリやカワアイサ等の鳥類が採餌場や休息場、ねぐらとして利用する。 ・河畔林と水辺が一体となった環境がみられ、ヤマセミの採餌場に利用される。
		瀬・淵	・溪流には蛇行に伴い瀬淵が形成され、アマゴやオイカワ、カジカガエル等が生息・繁殖している。
		自然裸地（砂礫河原）	・砂礫河原は、セグロセキレイ等の鳥類、オオハサミムシ等の昆虫類が生息・繁殖している。
		水辺湿地性草地・樹林	・水辺にはツルヨシ群落やコゴメヤナギ群集が見られ、カワラヒワやカワセミ等の鳥類、ヤナギを食樹するコムラサキ等が生息する。
		河畔林	・シイ・カシ萌芽林が分布する河畔林は、樹林性のメジロ等の鳥類、モリアオガエル等に利用される。

下流域	(船明ダム～河口)	瀬・淵	・砂礫の早瀬はアユの産卵床として利用され、淵には、ウグイ等の魚類やトンボ類の幼虫が生息・繁殖している。
		自然裸地(砂礫河原)	・広い砂礫河原は、コアジサシの集団営巣地に利用される。
		水辺湿地性樹林	・コゴメヤナギ群集やアキグミ群集が分布し、アカネズミやカワラヒワ、ヤナギ等を食樹するコムラサキ等が生息する。
		河畔林	・シイ・カシ萌芽林が分布する河畔林は、樹林性のメジロ等の鳥類、ムササビ等に利用される。
		河口部開放水面	・ボラ、ヌマチチブ等の魚類や泥中に生息するアリアケモドキやゴカイの生息環境となっている。
		河口部周辺の湿地(ワンド・たまり、水辺湿地性草地)	・河口部や安間川合流点付近には、ワンドやヨシ原等の湿地環境がみられる。 ・ワンドやたまりには、メダカやトノサマガエル等が生息・繁殖し、ヨシ原はオオヨシキリやカヤネズミの繁殖に利用される。

表 2-1 河川環境を特徴づける環境要素一覧

(3) 動植物の生息状況

重要な種

既往の河川水辺の国勢調査において確認された生物のうち、法令及び環境省レッドデータブック等によりその生息、生育が危惧されている種（重要な種）は、次頁以降に示すとおりである。

重要な種は、生物の確認された地域の法令及びレッドデータブック等を適用して、抽出している。また、諏訪湖については、「天竜川水系諏訪圏域河川整備計画 資料編（長野県）」に記載されている種から選定した。

表 2-2 重要な種の選定根拠文献

A : 『文化財保護法』（昭和 25 年 法律第 214 号）
B : 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（平成 4 年 法律第 75 号）
C : 『自然公園法』（昭和 32 年 法律第 161 号）
D : 『長野県希少野生動植物保護条例』（平成 15 年 長野県条例第 32 号）
E : 『環境省報道発表資料（平成 18 年 12 月 22 日） 鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて』 『環境省報道発表資料（平成 19 年 8 月 3 日） 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 及び植物 のレッドリストの見直しについて』
F : 『まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック - 』（静岡県自然環境調査委員会 2004 年） 淡水魚類については「西部」地域を適用
G : 『長野県版レッドデータブック（維管束植物編）』（長野県 2002 年） 『長野県版レッドデータブック ~ 長野県の絶滅のおそれのある野生生物 ~ 動物編』（長野県 2004 年）

表 2-3 既往調査でこれまでに確認された重要な種

調査項目	種数
魚類	20 種
底生動物	25 種
植物	84 種
鳥類	48 種
両生類・爬虫類・哺乳類	14 種
陸上昆虫類等	47 種
計	234 種

コオイムシ、タイコウチ、ミズスマシ、ガムシの 4 種は、底生動物調査および陸上昆虫類調査の両方で確認されている。

表 2-4 魚類の重要な種一覧 (H2~H16)

科名	種名	法指定・RDB記載等の状況							諏訪湖	上流域	中流域	下流域
		A 文化財 保護法	B 種の保存法	C 自然公園法	D 長野県 条例	E 環境省 RDB	F 静岡県 RDB	G 長野県 RDB				
ヤツメウナギ	スナヤツメ					VU	EN	VU				
ウナギ	ウナギ					DD		EW				
コイ	ナガブナ					DD						
	キンブナ					NT						
ドジョウ	スジシマドジョウ小型種東海型					EN	EN					
アカザ	アカザ					VU	EN	NT				
アユ	アユ							EW				
サケ	アマゴ					NT	N-I	NT				
	ニッコウイワナ					DD		NT				
メダカ	メダカ					VU		NT	EN			
ヨウジウオ	ガンデンイシヨウジ							N-III				
	テングヨウジ							N-III				
カジカ	カマキリ					VU		NT				
	ウツセミカジカ					EN		VU				
ハゼ	カワアナゴ							N-III				
	チヂブモドキ							N-III				
	オカメハゼ							N-III				
	チウラスボ					EN		VU				
	ノボリハゼ							N-III				
	ヒナハゼ							N-III				

法指定・RDB記載等の状況の凡例は、P2-10に掲載。

表 2-5 底生動物の重要な種一覧 (H4~H16)

科名	種名	法指定・RDB記載等の状況							諏訪湖	上流域	中流域	下流域
		A 文化財 保護法	B 種の保存法	C 自然公園法	D 長野県 条例	E 環境省 RDB	F 静岡県 RDB	G 長野県 RDB				
カニシ	マルカニシ					NT	NT	NT				
カワニナ	イボカワニナ					NT						
モノアラガイ	モノアラガイ					NT	NT	NT				
ヒラマキガイ(ハインドヒラマキガイ)	ヒラマキミズマイマイ					DD		NT				
イシガイ	カラスガイ					NT		N				
ウジミ	ヤマトウジミ					NT						
	マシジミ					NT						
キタヨコエビ	アンナンデールヨコエビ					NT						
カワトンボ	ミヤマカワトンボ							NT				
ヤンマ	クロスジヤンマ							NT				
	キンヤンマ							NT				
サナエトンボ	キイロサナエ							VU	CR+EN			
	ホソサナエ							NT				
	アオサナエ								CR+EN			
ヒロムネカワクラ	ノキカワクラ								NT			
イトアメンボ	イトアメンボ					VU	N-I					
ユオイムシ	ユオイムシ					NT	N-III					
タイヨウチ	タイヨウチ								NT			
ナベフタムシ	ナベフタムシ								N			
キタガミトビケラ	キタガミトビケラ								N			
ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ							DD				
	マルガタゲンゴロウ					NT	N-I	VU				
	キボシツブゲンゴロウ					NT		DD				
ミスズミシ	ミスズミシ								DD			
ガムシ	ガムシ								NT			

法指定・RDB記載等の状況の凡例は、P2-10に掲載。

表 2-6 植物の重要な種一覧 (H3~H14)

科名	種名	法指定・RDB記載等の状況							諏訪湖	上流域	中流域	下流域
		A 文化財 保護法	B 種の保存法	C 自然公園法	D 長野県 条例	E 環境省 RDB	F 静岡県 RDB	G 長野県 RDB				
イワヒバ	イワヒバ			C								
ハナヤスリ	ハマハナヤスリ						N-III	DD				
ゼンマイ	ヤシャゼンマイ			C								
オシダ	エンシュウベニシダ							EN				
カバノキ	カワラハンノキ							VU				
タデ	ノダイオウ							NT				
マツバサ	サネカズラ							VU				
キンボウゲ	オキナグサ						VU	EN				
スイレン	コウホネ							NT				
マツモ	マツモ							EN				
ケシ	ナガミノツルキケマン						NT					
アブラナ	ミチバタガラシ							DD				
ベンケイソウ	ツメレンゲ						NT	NT				
ユキノシタ	ミカワチャルメルソウ							N-II				
	タコノアシ						NT	NT	VU			
マメ	レンリソウ							VU	NT			
	イヌハギ						NT	EN	NT			
ジンチョウゲ	コショウノキ			C								
ミソハギ	ヒメミソハギ								DD			
	ミスマツバ								VU			
アリノトウグサ	フサモ							VU	NT	VU		
	フサモ								N-III	NT		
イウウメ	ヤマイワカガミ			C								
ツツジ	ミツバツツジ			C								
	サツキ			C								
リンドウ	リンドウ			C								
ミツガシワ	アサザ						NT	VU	EN			
カガイモ	スズサイコ						NT	NT	NT			
クマツツラ	コムラサキ								EN			
シソ	フトボナギナタコウジュ								EN			
	ミソコウジュ						NT	NT	CR			
ナス	ハダカホオズキ								VU			
ゴマノハグサ	キクモ								EN			
	イヌノフグリ							VU	NT	VU		
	カワチシャ						NT		NT			
イワタバコ	イワタバコ			C								
タヌキモ	ミミカキグサ								VU			
	ホサキノミミカキグサ								EN			
	コタヌキモ								CR			
	イヌタヌキモ			C			NT	VU	NT			
	ムラサキミミカキグサ						NT	VU	VU			
キキョウ	シデシャジン			C					N-III			
キク	ツツザキヤマジノギク	天然			D				CR			
	タカサゴソウ							VU	VU	VU		
	フニガナ								N-III			
	カワラニガナ						NT	NT	VU			
	オナモミ							VU				
オモダカ	サジオモダカ								CR			
	ウリカワ								VU			
トチカガミ	クロモ								CR			
	トチカガミ						NT	VU	EX			
	セキショウモ								EN			
ヒルムシロ	エソヤナギモ								CR			
区	センニンモ								N-I	EN		
	ササバモ								EN			
	ホソバミズヒキモ								NT			
	ヤナギモ								VU			
	リュウノヒゲモ						NT	EN	CR			
	ヒロハノエビモ								N-I	VU		
	イトモ						NT	VU	VU			
	アイノコイトモ								EN			
イバラモ	イバラモ								N-I	CR		
	オオトリゲモ								CR			
ユリ	イワキボウシ			C								
	ヤマユリ			C	D				NT			
	イワボトトギス								EN			
イネ	セトガヤ								EN			
	ミキワトダシバ							VU	VU	CR		
	ムツオレグサ								CR			
	アゼガヤ								CR			
	ヒエガエリ								DD			
サトイモ	マイヅルテンナンショウ							VU				
ミクリ	ホソバウキミクリ							VU		CR		
	ミクリ							NT	NT	VU		
カヤツリグサ	アワボスゲ								N-I	CR		
	アゼナルコ									EN		
	ヤマアゼスゲ								N-III			
	アサマズゲ							NT		EN		
	ノゲヌカスゲ									NT		
	ヒメアオガヤツリ								N-III	CR		
	ヌマガヤツリ									EN		
	コマツカサススキ								N-III			
	マツカサススキ								N-III			
ラン	シラン			C			NT	NT				
	シュンラン			C								

法指定・RDB記載等の状況の凡例は、P2-10に掲載。

表 2-7 鳥類の重要な種一覧 (H3~H17)

科名	種名	法指定・RDB記載等の状況						諏訪湖	上流域	中流域	下流域
		A 文化財 保護法	B 種の保存法	C 自然公園法	D 長野県 条例	E 環境省 RDB	F 静岡県 RDB				
カイツブリ	カンムリカイツブリ										
サギ	ヨシゴイ					NT	EN	VU			
	ミソゴイ					EN	EN	VU			
	ササゴイ							NT			
	チュウサギ					NT		NT			
カモ	コハクチョウ							N			
	ツクシガモ					EN					
	オンドリ					DD		LP			
	トモエガモ					VU	VU	EN			
タカ	ミコアイサ							NT			
	ミサゴ					NT	N-III	N			
	ハチクマ					NT	VU	VU			
	オジロウシ	国天	国内			EN	EN				
	オオタカ		国内			NT	VU	VU			
	ツミ							DD			
	ハイタカ					NT	VU	VU			
	ノスリ							NT			
	サシバ					VU	VU	VU			
	クマタカ		国内			EN	VU	EN			
ハヤブサ	チュウビ					EN	EN				
	ハヤブサ		国内			VU	VU	N			
	コチョウゲンボウ						N-III				
クイナ	クイナ						NT	DD			
	ヒクイナ					VU	EN	VU			
チドリ	コチドリ							NT			
	イカルチドリ							NT			
	シロチドリ							VU			
	タゲリ							NT			
	タカブシギ							VU			
	オオジシギ					NT	N-II	EN			
セイタカシギ	セイタカシギ					VU	NT				
ツバメチドリ	ツバメチドリ					VU					
カモメ	コアシサシ		国際			VU	EN	EN			
ハト	アオバト							NT			
フクロウ	アオバズク						VU	VU			
	フクロウ							NT	NT		
ヨタカ	ヨタカ					VU	VU	VU			
カワセミ	ヤマセミ						VU	NT			
ブッポウソウ	ブッポウソウ	天然			D	EN	CR	CR			
	ツバメ							EN	VU		
サンショウクイ	コシアカツバメ						NT				
ツグミ	サンショウクイ					VU	EN	VU			
	ノビタキ						N-II	NT			
ウグイス	コヨシキリ							NT			
カササギヒタキ	セッカ								CR		
	サンコウチョウ						NT	VU			
ホオジロ	ノジコ					NT		NT			

法指定・RDB記載等の状況の凡例は、P2-10に掲載。

表 2-8 両生類・爬虫類・哺乳類の重要な種一覧 (H3~H14)

科名	種名	法指定・RDB記載等の状況						諏訪湖	上流域	中流域	下流域
		A 文化財 保護法	B 種の保存法	C 自然公園法	D 長野県 条例	E 環境省 RDB	F 静岡県 RDB				
イモリ	イモリ					NT					
アカガエル	トノサマガエル							N-III			
	ダルマガエル					EN		CR			
	ツチガエル							VU			
アオガエル	モリアオガエル							NT			
	カジカガエル							NT			
イシガメ	クサガメ							N-III			
スッポン	スッポン					DD		DD			
トカゲ	トカゲ							N-II			
ヘビ	ヒバカリ								DD		
リス	ニホンリス							N-III			
ネズミ	ムササビ							NT			
	カヤネズミ							NT			
ウシ	カモシカ	特天							N		

法指定・RDB記載等の状況の凡例は、P2-10に掲載。

表 2-9 昆虫類の重要な種一覧 (H3~H13)

科名	種名	法指定・RDB記載等の状況						諏訪湖	上流域	中流域	下流域
		A 文化財 保護法	B 種の保存法	C 自然公園法	D 長野県 条例	E 環境省 RDB	F 静岡県 RDB				
シゲモ	ウスレナグモ					NT					
イトトンボ	オオイトトンボ					CR					
	モートンイトトンボ					VU					
カワトンボ	アオハダトンボ					NT					
ヤンマ	マダラヤンマ										
	クロスジヤンマ										
	キンヤンマ										
	ハマズミ					DD					
	エゾヤンマゴオロギ										
ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ					NT					
キンカメムシ	アカスジキンカメムシ										
ミスムシ	ミソナシミスムシ					NT					
	ミヤケミスムシ										
コオイムシ	コオイムシ					NT					
タイコウチ	タイコウチ										
セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ					NT					
	オオチャバネセセリ										
	キマダラセセリ					VU					
シジミチョウ	ミヤマシジミ										
	クロツバメシジミ					VU					
タテハチョウ	コムラサキ					NT					
	オオムラサキ					NT					
シロチョウ	ツマクロキチョウ					VU					
ジャノメチョウ	オオヒカゲ										
ドクガ	オオシラタドクガ										
ホソクビゴミムシ	ミヤマゴミムシ										
	アオヘリアオゴミムシ					CR+EN					
	セアカオサムシ										
	キソツヤゴモクムシ										
ミススマシ	ヒメミススマシ										
	ミススマシ					DD					
カワラゴミムシ	カワラゴミムシ										
ガムシ	ガムシ										
シデムシ	ヤマトモンシデムシ					NT					
	カバイロヒラタシデムシ										
	オニヒラタシデムシ										
コガネムシ	ヒゲコガネ										
	ナラノチャイロコガネ										
	クロカネフ										
	トラハナムグリ										
タマムシ	ヤマトタマムシ										
テントウムシ	ハラゴロオオテントウ										
	ヤマトアザミテントウ										
	ジウサンホシテントウ										
	ジウロクホシテントウ										
ベッコウバチ	アケボノベッコウ					DD					
アナバチ	ニッポンアナダカバチ					DD					

法指定・RDB 記載等の状況の凡例は、P2-10 に掲載。

注 1: 種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト[平成 17 年度 河川ダム湖統一版]」に準拠した
 注 2: 「法指定・RDB 記載等の状況」凡例

- A : 『文化財保護法』(昭和 25 年 法律第 214 号)
 ・特天: 特別天然記念物 ・天然: 天然記念物
- B : 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』(平成 4 年 法律第 75 号)
 ・国内: 国内希少野生動植物種 ・国際: 国際希少野生動植物種
- C : 『自然公園法』(昭和 32 年 法律第 161 号)
 ・指定植物
- D : 『長野県希少野生動植物保護条例』(平成 15 年 長野県条例第 32 号)
 ・指定希少野生動植物及び特別指定希少野生動植物
- E : 『環境省報道発表資料(平成 18 年 12 月 22 日)
 鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて』
 『環境省報道発表資料(平成 19 年 8 月 3 日)
 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物及び植物のレッドリストの見直しについて』
 ・EX: 絶滅 ・EW: 野生絶滅 ・CR+EN: 絶滅危惧 I 類 ・CR: 絶滅危惧 IA 類
 ・EN: 絶滅危惧 IB 類 ・VU: 絶滅危惧 II 類 ・NT: 準絶滅危惧 ・DD: 情報不足
 ・LP: 絶滅のおそれのある地域個体群
- F : 『まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック -』(静岡県自然環境調査委員会 2004 年)
 ・EX: 絶滅 ・EW: 野生絶滅 ・CR+EN: 絶滅危惧 I 類 ・CR: 絶滅危惧 IA 類
 ・EN: 絶滅危惧 IB 類 ・VU: 絶滅危惧 II 類 ・NT: 準絶滅危惧 ・DD: 情報不足
 ・LP: 地域個体群 ・N-I: 現状不明 ・N-II: 分布上注目種等 ・N-III: 部会注目種
 淡水魚類については「西部」地域を適用
- G : 『長野県版レッドデータブック(維管束植物編)』(長野県 2002 年)
 『長野県版レッドデータブック ~ 長野県の絶滅のおそれのある野生生物 ~ 動物編』(長野県 2004 年)
 ・EX: 絶滅 ・EW: 野生絶滅 ・CR: 絶滅危惧 IA 類 ・EN: 絶滅危惧 IB 類 ・VU: 絶滅危惧 II 類
 ・NT: 準絶滅危惧 ・DD: 情報不足 ・RH: 希少雑種 ・LP: 絶滅のおそれのある地域個体群 ・N: 留意種

代表種

河川環境を特徴付ける種(代表種)として、既往の河川水辺の国勢調査結果をもとに、以下の種を選定した。なお、諏訪湖の代表種を選定に当たっては、河川水辺の国勢調査が実施されていないことから「天竜川水系諏訪湖圏域河川整備計画 資料編(長野県)」に記載されている調査結果をもとに選定を行った。

表 2-10 環境要素と河川環境を特徴づける種

河川区分	環境要素	分類	生息生育する代表種
上流域 諏訪湖 天竜峡	開放水域(湛水域)	魚類	ワカサギ, ナガブナ, トウヨシノボリ
		底生動物	オオユスリカ, ハイロユスリカ, マルタニシ
		鳥類	ホシハジロ, カルガモ, オナガガモ, コハクチョウ
		昆虫類	アジアイトトンボ, ニンギョウトビケラ
	砂利浜・なぎさ 水辺湿地性草地・樹林	鳥類	セグロセキレイ, ハクセキレイ
		植物	イヌコリヤナギ, オノエヤナギ, アサザ, ササバモ, エビモ, ヨシ
		底生動物	アンナンデルヨコエビ
		鳥類	カワラヒワ
	瀬・淵	魚類	ウグイ, オイカワ, カワヨシノボリ, カマツカ
		底生動物	ウルマーシマトビケラ, ヒゲナガカワトビケラ, チャバネヒゲナガカワトビケラ, ナカハラシマトビケラ
		鳥類	カルガモ, マガモ, コガモ
		両生類	ツチガエル, カジカガエル
		昆虫類	ヒゲナガカワトビケラ, ハグロトンボ
	ワンド・たまり(湧水)・細流	魚類	スナヤツメ
		底生動物	ミズムシ
		鳥類	カルガモ, マガモ, コガモ
		両生類	トノサマガエル, ダルマガエル, アマガエル, ツチガエル, カジカガエル, シュレーゲルアオガエル
		昆虫類	トビイロマルハナノミ, ハグロトンボ, キイロヒラタガムシ, ヒメイトアメンボ, コシマゲンゴロウ
	自然裸地(砂礫河原)	鳥類	セグロセキレイ, カワラヒワ, ハクセキレイ, イソシギ
		昆虫類	ヒメサビキコリ, オオハサミムシ, カクスナゴミムシダマシ
水辺湿地性草地・樹林	植物	タチヤナギ群集(低木林), コゴメヤナギ群集, コゴメヤナギ群集(低木林), ツルヨシ群集, オギ群落, オオイヌタデ-オオクサキビ群落, セリ-クサヨシ群集	
	鳥類	ヤマセミ, カワセミ, カワラヒワ, ホオジロ, オオヨシキリ	
	両生類	アマガエル, ツチガエル, カジカガエル, シュレーゲルアオガエル	
	爬虫類	シマヘビ	
	哺乳類	アカネズミ, タヌキ, ホンドジカ	
	昆虫類	クロナガオサムシ, ヤナギルリハムシ, アカガネアオゴミムシ, マルアワフキ	
河畔林	植物	シイ・カシ萌芽林	
	鳥類	ヤマセミ, カワセミ	
	哺乳類	アカネズミ, タヌキ, ホンドジカ	

河川 区分	環境要素	分類	生息生育する代表種
天竜峡 中流域 船明ダム	ダム湛水域	魚類	オイカワ, アブラハヤ
		底生動物	キイロカワカゲロウ
		鳥類	オシドリ, カワアイサ, マガモ, コガモ
		昆虫類	ゴマフガムシ, タテスジナガドROMシ, アメンボ, ウ斯巴キトンボ, ギンヤンマ, キイロカワカゲロウ
	瀬・淵	魚類	オイカワ, アブラハヤ, トウヨシノボリ, カワヨシノボリ
		底生動物	ウルマーシマトビケラ, フタバコカゲロウ, アカマダラカゲロウ, シロタニガワカゲロウ, キイロカワカゲロウ, ヒゲナガカワトビケラ
		鳥類	カワアイサ, マガモ, カワガラス, コガモ
		両生類	ツチガエル
	自然裸地(砂礫河原)	鳥類	カワラヒワ, セグロセキレイ, キセキレイ
		昆虫類	オオハサミムシ, ノグチアオゴミムシ, ヒメサビキコリ
	水辺湿地性草地・樹林	植物	タチヤナギ群集(低木林), タチヤナギ群集, コゴメヤナギ群集, コゴメヤナギ群集(低木林), ネコヤナギ群集, オギ群落, ツルヨシ群集
		鳥類	ヤマセミ, カワセミ, カワラヒワ, メジロ, ホオジロ
		両生類	モリアオガエル, シュレーゲルアオガエル, ツチガエル
		哺乳類	アカネズミ, タヌキ
	河畔林	植物	シイ・カシ萌芽林, ヌルデ-アカメガシワ群落
		鳥類	オシドリ, ヤマセミ, カワセミ, メジロ
両生類		モリアオガエル	
哺乳類		アカネズミ, タヌキ	
船明ダム 下流域 河口	瀬・淵	魚類	ヌマチチブ, オイカワ, トウヨシノボリ, ウグイ, アユ, ウナギ
		底生動物	アカマダラカゲロウ, チラカゲロウ, ヒゲナガカワトビケラ, ヨシノマダラカゲロウ, モクスガニ
		鳥類	コガモ, カルガモ, カワアイサ, カイツブリ, コアジサシ
		昆虫類	ウ斯巴キトンボ, シジミガムシ, ヒラタドROMシ, アメンボ, ハグロトンボ
	自然裸地(砂礫河原)	鳥類	イソシギ, コアジサシ, カワラヒワ, セグロセキレイ
		爬虫類	カナヘビ
		昆虫類	オオハサミムシ
	水辺湿地性樹林	植物	アキグミ群落, コゴメヤナギ群集, コゴメヤナギ群集(低木林), カワヤナギ群落(低木林)
		鳥類	カワラヒワ
		両生類	アマガエル
		哺乳類	アカネズミ, タヌキ
	河畔林	植物	ムナグロツヤハムシ, ヨツボシケシキスイ, コムラサキ
		鳥類	メジロ
		哺乳類	アカネズミ, タヌキ
		昆虫類	ムナグロツヤハムシ, ヨツボシケシキスイ
	河口部開放水面	魚類	ボラ, ヌマチチブ, マハゼ, アユ, ウナギ
底生動物		ゴカイ, アリアケモドキ, テナガエビ, モクスガニ	
鳥類		マガモ, コアジサシ, カルガモ	

河川区分	環境要素	分類	生息生育する代表種	
	河口部周辺の湿地 (ワンド・たまり、 水辺湿地性草地)	ワンド・ たまり	魚類	ギンブナ, メダカ
			底生動物	テナガエビ
			鳥類	マガモ, カルガモ
			両生類	アマガエル, トノサマガエル
			昆虫類	アメンボ, アオモンイトトンボ, ギンヤンマ
		水辺 湿地 草地 性	植物	ヨシ群落
			鳥類	ホオジロ, オオヨシキリ
			両生類	アマガエル
			哺乳類	タヌキ
			昆虫類	アオモンイトトンボ, ギンヤンマ, ハマベアワフキ

注) 緑字：典型的な種、青字：典型的な種でかつ重要種、紫字：移動性の種、茶字：移動性の種でかつ重要種

典型的な種：天竜川を特徴づける河川環境に依存する動植物

移動性の種：河川の連続性を指標する海と川を行き来する回遊性の魚介類

2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

天竜川流域は、水と緑の豊かな自然に恵まれ、数多くの名勝や景勝地が分布し、四季を通じて観光のメッカとなっている。

上流域は、南アルプス国立公園や中央アルプス県立公園等の自然公園に指定され、自然豊かな景観が広がっている。また飯田市には、名勝天竜峡が存在する。

中流域は、山間部を渓流区間であり、深いV字谷が形成されている。周辺の山々は、天竜奥三河国定公園に指定されており、また山林は天竜美林と呼ばれるスギ・ヒノキの植林地が広がっている。

下流域は、上流に分布する石英を多く含んだ花崗岩類が削り運ばれた礫によって、白い河原が形成されている。



諏訪湖

諏訪盆地の真ん中に位置する諏訪湖は、海拔 759 m、湖周 15.9km、面積 13.3km² の長野県一の湖。かりんやサクラの並木に彩られ、湖畔では散策やジョギング、湖上ではボートや釣り等の憩いの場となっている。八ヶ岳連峰、北・南、中央アルプス等の日本の高峰も湖上から一望できる。



アルプスの景観

南アルプス（赤石山脈）は、標高 3,193m の北岳を主峰とし、延長 120km、幅 40km で長野県、山梨県、静岡県に跨る。一方、中央アルプス（木曽山脈）は、標高 2,956m の木曽駒ヶ岳を主峰とし、延長 65km、幅 15km で長野県、岐阜県に跨る。伊那市および駒ヶ根市付近からは 2 つのアルプスが望める。



天竜峡（飯田市）

天竜奥三河国定公園の第 1 種特別地域に指定されている。天竜川の流れによって侵食された渓谷は、大自然が造り出した花崗岩の奇岩がそびえたつ景勝地で、昭和 9 年には国の「名勝」に指定されている。



鷺流峡

飯田市中心部に架かる南原橋から時又の天竜橋まで、約 2km にわたって続く渓谷である。急流をなし、天竜舟下り 1 番の豪快さを味わえる場所とされている。名前は「鷺湖（諏訪湖の別名）からの流れが育んだ峡谷」を意味する。



天竜美林

天竜美林は、天竜流域の静岡県の北部山間地 135,000ha に広がり、スギ・ヒノキから成る一大森林地帯である。明治 19 年、金原明善(55 歳)は「河を治めるは、山を治めること」との信念から、江戸時代から続く植林を一層進め、今の天竜美林の礎を築いた。



佐久間ダム(湖)

ダム建設によって新たに誕生した、全長 33km、総貯水容量 3 億 2684 万 t の人造湖。ダム・発電所と同様に日本有数の規模を誇る。旧佐久間町の推薦で 2005 年に(財)ダム水源地環境整備センターの「ダム湖百選」に選ばれた。天竜奥三河国定公園に指定されている。



白い砂礫河原

天竜川上流部に分布する石英を多く含んだ花崗岩類が削られ、下流に運ばれることで、下流部の 7.0~8.0km 付近には、天竜川らしい白い砂礫河原が残っている。かつての天竜川はこうした白い砂礫ばかりの河川敷であったが、ダム・堰堤等の河川改修等によって、氾濫・攪乱が少なくなった代わりに、緑の雑木林の河川敷へと変化してしまった場所も多い。



(2) 流域の文化財等

流域には、数多くの名勝、天然記念物、史跡、民俗文化財、重要伝統的建造物群保存地区等が存在している。主なものとしては、名勝が3件、特別天然記念物が6件、史跡が2件指定されている。

表 2 - 1 1 主な文化財等

指定区分	指定	名称・地区名	指定年月日	所在地	河川
名勝	国	天竜峡	1934.01.22	飯田市	天竜川
名勝	国	光前寺庭園	1967.05.10	駒ヶ根市	天竜川
名勝	国	龍澤寺庭園	1936.09.03	浜松市	天竜川
天然記念物	国	小野のシダレグリ自生地	1920.07.17	辰野町	天竜川
天然記念物	国	横川の蛇石	1940.07.12	辰野町	天竜川
天然記念物	国	新野のハナノキ自生地	1922.10.12	阿南町	天竜川
天然記念物	国	北浜の大カヤノキ	1954.03.20	浜松市	天竜川
天然記念物	国	京丸のアカヤシオ及びシロヤシロ群落	1974.11.26	浜松市	天竜川
天然記念物	国	熊野の長フジ	1932.07.25	磐田市	天竜川
史跡	国	三岳城跡	1944.03.07	浜松市	天竜川
史跡	国	蜷塚遺跡	1959.05.13	浜松市	天竜川
特別史跡	国	遠江国分寺跡	1923.03.07	磐田市	天竜川



図 2-3 主な文化財等

(3) 流域の近代土木遺産

流域には、川とともに歩んできた歴史を反映し、橋梁、分水工、発電所、堤防といった、川に関連した数多くの土木構造物が残されている。それらの多くは、近代土木遺産に指定され、完成年代、規模の大きさ、技術力の高さなどを基準とした評価がされている。

表 2-12 主な近代土木遺産

名称	所在	概要	文化財等
西天竜円筒分水工群	上伊那郡辰野町 伊那市	昭和 13 年完成の全国最大規模の分水工	日本の近代土木遺産 A ランク
中部電力南向発電所	上伊那郡中川村	昭和 4 年完成。ローリングゲート 4 門	同上
坂戸橋	上伊那郡中川村	昭和 8 年完成。現存する戦前の RC アーチの最大スパン橋。	同上
理兵衛堤防	中川村	松村理兵衛忠欣が水害に苦しむ地域を救おうと、私財を投じた完成させた堤防。	
惣兵衛堤防	下伊那郡高森町	江戸時代、飯田藩の石工の中村惣兵衛が完成させた堤防。	
天竜橋	飯田市	昭和 10 年完成。角柱タイプの巨大親柱。	日本の近代土木遺産 B ランク
中部橋	浜松市	昭和 12 年完成。現存する戦前の鋼トラス補鋼された吊橋の最大スパン橋。	同上
鹿島橋	浜松市	昭和 12 年完成。現存する戦前の道路用鋼トラスの最大スパン橋。	日本の近代土木遺産 A ランク
彦助堤	浜松市	江戸時代初期、開田を目的として建造された堤防。庄屋松野彦助が自らの命を投じて完成に貢献した事とその名の由来。	
天保堤	浜松市	1200 年前の天平宝字年間に建造された堤防跡。続日本紀にも記載されている。	
JR 天竜川橋梁 (下り線)	磐田市、浜松市	大正元年完成。現存する戦前最大のトラス橋。	日本の近代土木遺産 B ランク



図 2-4 主な近代土木遺産

西天竜円筒分水工群(辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市)

西天竜幹線水路の円筒分水工群は、中央アルプスの東山麓の水の乏しい扇状地に作られている。鉄筋コンクリート製で、大正 8 (1919) 年～昭和 14 (1939) 年にかけて、約 57 基が設置され、内約 35 基は、現在も活用されている。農地へ水を流出する時、農地の大きさに応じて正確な比率で水が配分できるように、流出水量を穴の数で調節している。平成 18 年度には(社)土木学会の「土木遺産」に認定されている。



土木学会ホームページ
平成 18 年度の推奨土木遺産より

水路は岡谷市の取水口から、辰野町・箕輪町・南箕輪村・伊那市までの 26.7km を流れ、1,180ha の水田を潤し、西天竜発電所で小沢川に注ぐ。発電所は、昭和 36 年、用水の有効利用と水路の維持管理費用の捻出をかねて建設された。沢尻から小沢川までの落差 65m を利用して 3,600kw の電力を発電している。

中部電力南向発電所取水堰堤(中川村葛島)

「日本の電力王」と呼ばれた福沢桃介(1868～1938 年)が最後に建設した発電所である。昭和 2(1927)年に着工、昭和 4(1929)年 1 月に竣工、同年 4 月に運用を開始した。発電所の 10km 程上流には南向ダムがあり、ローリングゲートが 4 門使用されている。天竜川の豊富な水量を使い安定した電力を供給し続けている。認可最大出力は 26,700kw、最大使用水量は 37.70m³/s、有効落差は 79.35m で、発電機は立軸単輪単流フランシス水車を 2 基備えている。洋館風のアーチ状開口の建物をもつ。発電所内には桃介の偉業を称える銅像とレリーフが掲げられてる。(社)土木学会の「土木遺産」に認定されている。



坂戸橋(中川村)

昭和 8(1933)年に建造された、全長 77.8m、幅 5.5m、高さ 20m の鉄筋コンクリート製の上路アーチ橋である。支間が 70 m あり、現存する戦前の RC 橋の中では最大のものである。平成 14 年には土木学会選奨土木遺産に選ばれている。兩岸には、桜とつつじが植えられ、春には見事な桜のトンネルができ、通る人の目を楽しませてくれる。(社)土木学会の「土木遺産」に認定されている。



理兵衛堤防(中川村片桐田島の中川橋右岸)

松村理兵衛忠欣が水害に苦しむ地域を救おうと、私財をなげうって着手した。度重なる崩壊の中、工事は同常呂、同忠良の松村家三代が引き継ぎ、37 年をかけて 1808 年に完成した。完成時の延長は 180m。完成した堤防の構造は刎ねが三層になった、かすみ堤に似た形で、やや上流にある天竜川支流の前沢川の流水と一緒に、



対岸側に水を押し返す仕組みで、一千石の耕地を確保したとされる。明治期以降の洪水で大半が土砂に埋もれたが、平成 18 年の洪水で一部が洗い出され、翌年中川村の発掘調査が行われた。

惣兵衛堤防(下伊那郡高森町下市田の天竜川沿い)

江戸時代、飯田藩堀親長の命により、飯田番匠町の石工の中村惣兵衛を土工長として、寛延 3 (1750) 年～宝暦 2 (1752) 年の 3 年間をかけて完成された。史実によると、堤防延長 146m、平均の高さ 4m。長めの石を三段に積み上げ石垣とし壁面が凹凸で頑丈に出来ていた。入り江のように曲がり洪水時に本流の激しい波が碎ける防御部分の技術が高かったとされる。三六災害により、暴れ天竜に約 210 年間耐えた惣兵衛堤防は破堤し、その跡地には新しい堤防が築かれた。

天竜橋(飯田市時又)

飯田市時又に架かる、全長 87.8m の鋼ブレーストリブ・タイドアーチである。昭和 10 年完成。

中路タイドアーチは、わが国では稀である。橋台部分は、角柱タイプの巨大親柱構造となっている。

(社)土木学会の「土木遺産」に認定されている。



中部橋(浜松市)

浜松市佐久間町に架かる全長 167m の人道橋。昭和 12 年完成。

戦前の鋼トラス補鋼された吊橋としては、現存するもので最大スパンである。

(社)土木学会の「土木遺産」に認定されている。



鹿島橋(天竜市)

現存する戦前最大スパン (102m) の上曲弦カンチレバートラス併設側道橋は日本初の斜張橋といわれている。橋脚は 2 本の柱がアーチで結ばれている。昭和 12 年 (1937 年) に建設され、延長 216.6m、幅員 6.0m の規模をもつ。

(社)土木学会の「土木遺産」に認定されている。



彦助堤(浜松市)

江戸時代の初め頃、天竜川は大天竜、小天竜の二つに分かれて流れていた。浜北市内を貫いて流れる小天竜もしばしば氾濫し、人々を苦しめた。慶安年間(1648～52)の堤防は、1673年(延宝元年)と翌年の洪水で決壊した。そこで新原村庄屋彦助は、領主近藤縫殿助の援助指導の下に率先して所有地内に大築堤工事を実施した。堤防を造り小天竜の流れを締め切って、本川に合流させる工事が行われたが、川の流れが強く工事が進まなかった。それを見た庄屋の松野彦助は、自ら人柱になると川に身を投げ惨死を遂げた。その熱意にうたれた農民の努力により、延宝3年(1675)大堤長61間高1丈、土堤長58間高4尺の堤防が完成し、この堤防を「彦助堤」と呼ぶようになったとの伝説がよく知られている。本来は開田を目的としたものだが、開田はもとより浜松城の防衛に役立ち、又東海道の交通管理上にも都合が良いと言う一石二鳥の大きな効用があった。現在では一部が残るのみである。



天保堤(浜松市)

「続日本紀」によると、天平宝字5(761)年の水害で約1,000mの堤防が決壊したため、延べ人数303,700人あまりの労力によって修築された(平安時代の「延喜式」によって算出した遠江国の全人口が約98,000人と推定される)。この堤防は小林から浜松市有玉まで続いていたと言われているが、今ではわずかに残っているにすぎない。しかし、1,200年前の工事の跡が残っていることは珍しく貴重である。修築堤防の断面は天端3.6m、高さ1.36m、敷高5.4mで当時最高の復旧工事をしたと思われる。



JR 天竜川橋梁(下り線)

浜松市と磐田市に架かる長さ1208m、19スパンの橋梁。大正元年完成。

設計は旧鉄道院、製作は米国の橋梁会社である。現存する戦前最長のトラス橋である。

(社)土木学会の「土木遺産」に認定されている。



(4) 天竜川にまつわる祭りや観光等

流域には、数多くの景勝地や観光地、温泉などが散在しており、観光・レクリエーションの場として重要な存在となっている。特に、天竜川は「あばれ天竜」の異名もあり、古くから洪水との闘いを余儀なくされ、治水に関しては先人の苦労を刻みつけてきている。こうした歴史・文化を背景とする史跡が多く存在する。

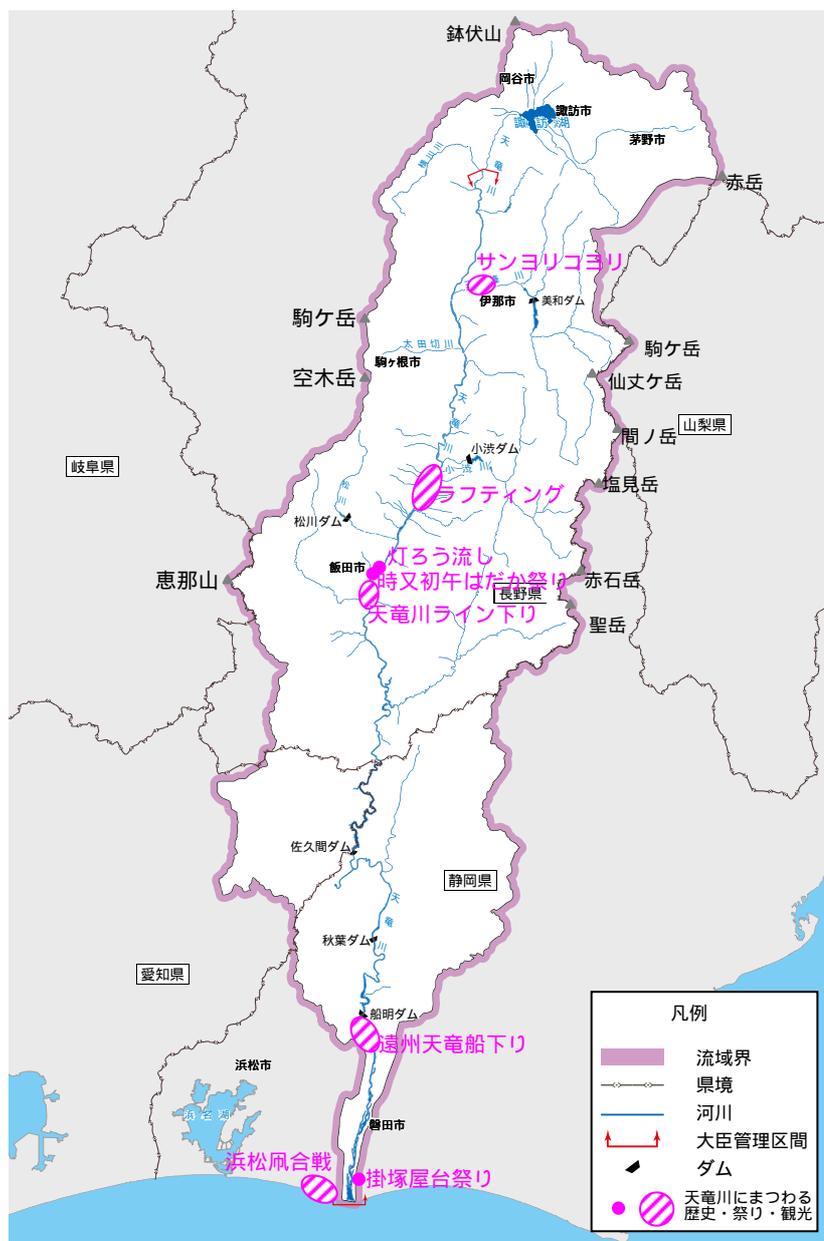


図 2-5 天竜川にまつわる歴史・祭り・観光

サンヨリヨヨリ(伊那市)

室町時代の文明4年(1472)から続いているとされる七夕祭りである。旧暦の七夕にあたる8月7日、伊那市美篤下川手と、三峰川を挟んだ対岸の富県桜井の両地区に祭られている二つの天白社で行われる。本来は三峰川の洪水を鎮めるための神事だったものが、川を隔てた両天白社の関係から七夕神話に結び付き、一体のものとして融合したと言われている。



提供：三峰川みらい会議

灯ろう流し(高森町市田)

市田の灯ろう流しは、信州各地でお盆前後に行われる灯ろう流しの中でも歴史が古く、大正末期から現在まで80年以上の歴史がある。最初は、「あばれ天竜」と呼ばれる天竜川の水害の犠牲者などを供養して始まり、今では、新盆を迎えた家々から集められた灯ろうが天竜川を流れていく。同時に打ち上げられる3千発の花火は、高森町が中央アルプスと南アルプスに挟まれているため、花火の音が2つのアルプスにこだまし、この地方の花火大会独特の雰囲気味わえる。



提供：高森町

時又初午はだか祭り(飯田市時又)

鎌倉時代、初午の日に合戦から帰ってきた兵士たちが天竜川で軍馬を洗い清めたところ、戦死した兵士たちの代わりに長石寺の神馬が昇天したという故事に由来する。それ以来、戦勝をもたらしてくれた神馬に感謝するとともに、天竜川を奉って無病息災や五穀豊穰を祈願する民間信仰として続けられ、伊那谷の春を呼ぶ行事となっている。3月の肌寒い頃、さらし姿の男たちが、首だけの白い馬など六基のみこしを担いで、冷たい川の中を勇ましく練り歩く。



提供：飯田市

天竜ライン下り

天竜峡温泉港～唐笠港まで船頭による投網の技とガイドで、約10kmの渓谷を50分かけて下る。国の名勝に指定された天竜峡を通過する。つつじ・山桜・白百合・もみじと、四季折々の渓谷の風情を満喫できる。他に、弁天港から時又港までの急流(鷲流峡)を下る天竜舟下りがある。



ラフティング

天竜川をゴムボートで下るスポーツで、天竜川では飯田市付近を中心として、さまざまなツアーコースが設定されている。



遠州天竜船下り(浜松市天竜区)

船明ダムの下流、米沢を出発して二俣まで約6kmの川下り。天竜美林、水しぶき、川の音など変化に富んだ流れの中を、船頭による巧みな舵さばきでゆっくりと進んでいく。所要時間は約50分。天竜二俣駅構内窓口で受付。乗り場までは無料送迎バスが出ている。



掛塚屋台祭(磐田市掛塚)

天竜川河口の掛塚港は、物資積出しの中継基地として栄えてきた。掛塚港の発展と共に栄えた貴船神社は、掛塚港の鎮守、舟運の安全の守護神として崇敬され、特に回船業者に厚く信仰されてきた。この貴船神社の神事「神輿の渡御(おわたり)」は、年に1度、御神体が神社から御仮宮にお出ましになり、神の徳を氏子に施されるもので、氏子の若者が屋台を曳いて神輿のお供をするのが掛塚屋台祭である。



浜松凧合戦

中田島砂丘は、鳥取砂丘などとともに日本三大砂丘に数えられている。毎年五月の大型連休中、中田島砂丘は祭り一色に塗りつぶされる。祭りでは百七十もの町内会が持ち寄った凧が花火の合図とともに一斉に大空に舞い上がる。この地では、古くから長男が生まれると、端午の節句に若者たちが凧を揚げて祝う「初凧(はつだこ)」の風習があった。それがいつしか、一大イベントとなって、今では一日で数十万人もの観衆が集まる「凧合戦」となった。



2 - 4 自然公園等の指定状況

(1) 自然公園及び自然環境保全地域

天竜川流域の自然公園の指定状況は以下のとおりである。

表 2 - 1 3 域内の自然公園、自然環境保全地域

分類	公園等名称	指定年月日	面積 (ha)	河川	関係県
国立公園	南アルプス国立公園	S39.6.1	35,799	天竜川	山梨県 長野県 静岡県
国定公園	八ヶ岳中信高原国定公園	S39.6.1	38,957	天竜川	長野県 山梨県
	天竜奥三河国定公園	S44.1.10	25,756	天竜川	長野県 静岡県 愛知県
県立自然公園	塩嶺大城県立公園	S39.6.25	1,340	天竜川	長野県
	三峰川水系県立公園	S33.5.1	526	天竜川	長野県
	中央アルプス県立公園	S26.11.22	35,427	天竜川	長野県 岐阜県
	天竜小渋水系県立公園	S45.12.21	2,561	天竜川	長野県
	奥大井県立自然公園	S43.4.1	8,531	天竜川	静岡県
	振草県立自然公園	S44.3.14	2,198	天竜川	愛知県

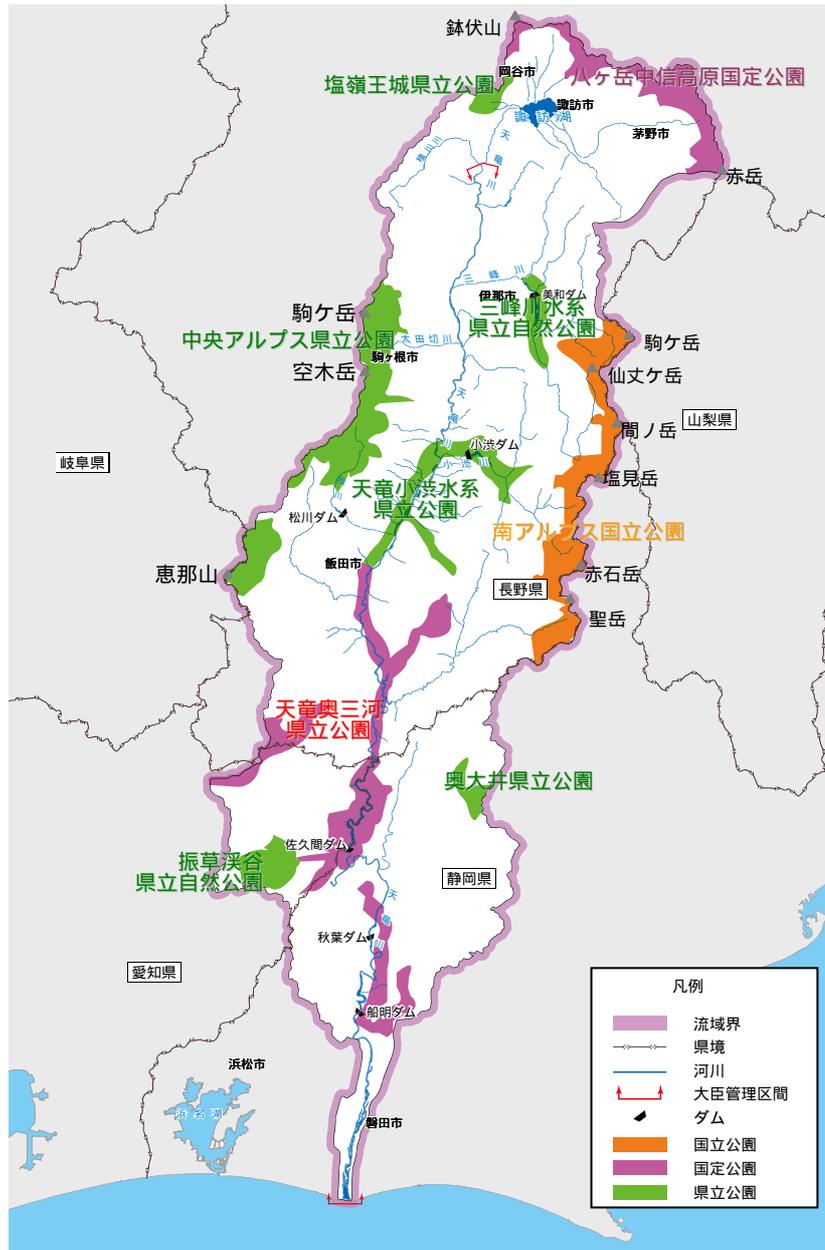


图 2-6 自然公園